

## お知らせ・会務報告

## 日本甲虫学会第10回大会報告

日本甲虫学会第10回大会は、日本昆虫分類学会第22回大会、九州・沖縄昆虫研究会第3回大会、日本鱗翅学会九州支部2019年度大会との合同大会として、2019年11月30日(土)から12月1日(日)の日程で、九州大学伊都キャンパス(福岡市)を会場として開催された。福岡県では2015年の第6回大会以来の開催であった。大会参加者は187名であり、甲虫関係以外の研究者・同好者も多数参加し大盛況であった。

1日目は、午前中に評議員会を、午後に公開シンポジウム「環境保全に果たす昆虫学の役割」を環境研究総合推進費(4-1901)との共催で実施した。現在の大量絶滅の時代にあって、かつての普通種が絶滅寸前という場合も生じており、昆虫研究に携わる者として今できることは一体何なのかを探るべく、以下の5名の方々にご講演いただいた。

荒谷邦雄(九州大学大学院比較社会文化研究院): 昆虫研究に携わる者として、大量絶滅の時代とどう向き合うべきか? ~公開シンポジウム「環境保全と昆虫研究の関わり」開催の主旨~

菊部治紀(神奈川県立生命の星・地球博物館): やれば出来る? 絶滅危惧昆虫類の域内保全

北野 忠(東海大学教養学部)・小田島樹(東海大学大学院人間環境学研究科)・西原昇吾(中央大学理工学部): 希少水生昆虫の生息域外保全

富坂峰人(日本工営株式会社沖縄支店技術部): インフラ整備時の環境保全に係る最近の取組事例など

會田義明(環境省大臣官房環境影響評価課): 環境アセスメント制度の概要と環境省の取り組み

講演後の総合討論では、これまで甲虫学会が提出した要望書によって多くの希少種の保全が実現できたことが高く評価された一方で、希少種の保全、特に生息域外保全事業に対してもっと多くの予算をつけるように学会として関係省庁に要望すべきという意見も出された。また、中学・高校の理科の教員に対して、生物多様性科学や保全生物学の正しい知識を教授することも重要であるとの指摘もあった。

シンポジウムに続く総会の後、学会賞授与式・受賞講演が行われ、次の方々が表彰された。

論文賞: Nishikawa, M.: *Muganryus susumui* gen. et sp. nov. (Coleoptera, Leopdidae, Catocerinae) from Hokkaido, a beetle subfamily new for the Japanese fauna. *Elytra*, NS, 8 (2) : 407-416.

功労賞: 大平仁夫氏

奨励賞: 吉田貴大氏

論文賞の西川正明氏が大会に来られなかったため、奨励賞の吉田貴大氏による受賞記念講演が行われた。

懇親会は、伊都キャンパス内のビッグスカイで盛大に行われた。大会長の荒谷邦雄氏の挨拶と乾杯で開会し、中盤には次年度大会(昆虫分類学会と合同)開催地の愛媛大学の小西和彦氏から開催地の案内を頂戴した。会の終わりにには会長の大原昌宏氏にスピーチを頂き、日本鱗翅学会九州支部長の二町一成氏に締めを行っていただいた。今回の懇親会では、九州大学に関連する焼酎や日本酒などを準備させていただいた他に、今回は伊都キャンパス内でも駆除が行われているイノシシ肉(糸島産)の料理2点を出させていただき、好評を得た。また、事前に会員の皆様からの差し入れをお願いしたところ、各地の焼酎やウイスキー、さつま揚げなどのご提供をいただき、多様なメニューを揃えることができた。休憩室のお菓子類を含め、ご協力をいただいた皆様に改めて感謝申し上げる。



図1. 懇親会。



図2. シンポジウムにおける講演。

2 日目は、午前に同定会とポスター発表 (10 件) が行われた。同定会は会員諸氏のご協力により盛況であった。午後の一般講演は 36 題という想定を大きく上回る数となり、3 会場に分けて開催させていただいた。そのうち、22 題が甲虫類に関する発表であった。その後、4 つの分科会 (ゴミムシ、ゾウムシ、水生甲虫、カミキリ) が行われた。



図 3. 同定会。



図 4. ポスター会場。

本大会は 4 団体の合同大会ということで、普段の大会にはない多様な分類群の発表があり、新たな発見と交流が得られる有意義な大会となったと思う。会場の伊都キャンパスへの移動の不便さでご迷惑をお掛けした点についてはお許し願いたい。最後に、大会事務局を運営くださった皆様、アルバイトとして手伝ってくれた九州大学の学生の皆様に厚くお礼申し上げる。

(大会長 荒谷邦雄)

(大会事務局長 細谷忠嗣)

## 調査観察例会のお知らせ

2020 年度日本甲虫学会 第 11 回 調査観察会を、京都府丹後半島において開催します。甲虫類に関しての知見や調査、観察での経験が豊かな方々と現場で懇親できるチャンスです。多くの方のご参加をお待ちしております。甲虫学会非会員の方の参加も歓迎いたします。調査、観察と虫談を大いに楽しみましょう！

日 程：2020 年 6 月 20 日 (土)・21 日 (日)

宿 泊 先：スイス村山の家 (〒627-0101 京都府京丹後市弥栄町野中 2562 電話 0772-66-0036)。

宿泊予約は世話役がまとめて行いますので直接の申込は避けてください。宿舎は標高 530 m で、太鼓山山頂 (683 m) にかけて見通しのよいスキー場があり、周辺にブナ林があります。複数個所でライトを点灯します。定員 40 名の宿舎一棟を貸切りにする予定です。

<http://www.swissmura-homepage.mints.ne.jp/swiss/stay/yamanoie.html>

宿へのアクセス：公共交通機関の場合、大阪駅・

新大阪駅・京都駅から鉄道または高速バスで京都丹後鉄道「峰山」駅まで来てください。マイクロバス (または世話役自家用車) が迎えに行きます (宿舎まで所要片道約 40 分)：出発時刻 (予定) は往路が「峰山」駅 13:30 発 (第 1 便) と 17:00 発 (第 2 便)、帰路が「峰山」駅へ 11:00 着 (第 3 便) と 15:30 着 (第 4 便) です (希望の乗車便は事前にお知らせください)。京都駅発着の高速バスは停留所「峰山案内所」が最寄りなので「峰山駅」まで移動

